

## 大豆「リュウホウ」はどのように栽培するの？

### 【1 「リュウホウ」はこうして栽培しましょう】

#### (1)品種に適する栽培法

ア 播種期は、県南部では6月1日～6月20日、県中部では5月15日～6月5日を適期間とし、圃場条件等に応じて収量確保には期間内での早播(以下、早播と略)を、倒伏防止には晩播(以下、晩播と略)を中心に実施します。

イ 播種密度は、10a当たり早播で7千～1万本、晩播で1万2千本～1万5千本を基準とします。

ウ 施肥は、10a当たり窒素量が県中部で2～4kg、県南部で2(～4)kgとし、圃場や水田転換年数を勘案して実施します。

エ 雑草・病害虫防除は、「スズカリ」等の体系に準じて発生状況等に十分留意しながら実施し、中耕・培土は、本品種の重要な課題である倒伏防止のためていねいに実施します。

オ 収穫は、成熟期を過ぎて可能な状態になったら速やかに実施し、しわ粒(皮浮き)等の発生を回避するとともに、倒伏がみられる圃場ではコンバインの操作をより慎重に行うことで、汚損粒の発生や土壌の混入を防止します。

#### (2)目標とする収量・生育量

ア 早播では、10アール当たり350kgの収量を目標とし、主茎長60cm前後、総節数400節/m<sup>2</sup>前後、稔実莢数700莢/m<sup>2</sup>、百粒重31～32gを確保しましょう。

イ 晩播では、10アール当たり280kgの収量を目標とし、主茎長50cm前後、総節数400節/m<sup>2</sup>前後、稔実莢数600莢/m<sup>2</sup>、百粒重30～31gを確保しましょう。



図1 リュウホウ(左)・スズカリ(中)及びナンブシロメ(右)の草姿

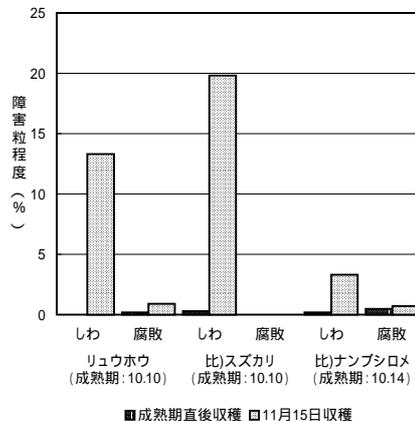


図2 収穫時期による品質の変化(平成17年)

### 【2 この技術でこんな課題を解決】

#### (1)現地で問題となっている倒伏を防止

「リュウホウ」の生産の安定化を図ることができ、実需者が求める大豆の安定供給による持続的な契約栽培等が期待されます。

#### (2)留意事項

ア 目標収量は坪刈り調査によるもので、圃場枕地や収穫・選別の損失等は未考慮の数値です。

イ 品種の特性については、別の研究レポート等を参照してください。